

国際協力海外レポート

馬場 金司（ばば きんじ）【JICA シニア海外ボランティア】

赴任地：ガーナ共和国 セントラル州ケープ・コースト市
職種：統計
赴任期間：2014年3月～2016年3月（予定）



○家族、対人関係

ガーナの家庭生活に接する機会は少ないので、以下の印象には誤解もあるかも知れません。

日本の親子関係は友達関係に近くなっていますが、ガーナではかなり距離があります。親が子供に話す場合は、多くが叱ったり注意をする時で、雑談することは少ないと思います。食事も、家族がそろって食べるのではなく、各自が自分の都合でばらばらにとります。若い人に、「なぜダイニング・テーブルを買うのか？」と聞いたら、笑いながら、「クリスマスがあるから」と答えました。

年配者に対しても親子関係と同じようなもので、荷物を両手に持って歩いていると、若い人が、「持ちましょう」と言ってくることがあります。

また、ガーナでは手で食事をする習慣のためか、人に対しては右手を使うのが原則です。握手はもちろん、あいさつで手を挙げるのも右手です。そのため、荷物はできるだけ左手に持つようにしています。みんな握手が大好きです。

○飲み物、食べ物

ガーナでは飲酒、喫煙はほとんどありません。ビールメーカーや酒屋はありますが、現地の人が飲むのはまれだと思います。学科の教科の内容を議論するのに、ホテルで1週間宿泊したことがありますが、朝から夜までスケジュールが詰まっており、夕食時にビールでも飲みたくなるのですが、彼らはお酒には全く手を出しませんでした。

お酒以外では、人気のある独特の清涼飲料水があります。一口飲んで止めました。

主食は、ヤムイモ、キャッサバ、プランテイン（主食用の大型バナナ）、とうもろこし、米です。キャッサバやヤムイモを杵でついて餅状にし、スープに付けて食べる「フフ」、「バンクー」などが代表的な現地食です。フフは嚙まずにうどんのように飲み込みます。手で食べるのですが、彼らと同じように熱いスープに指をつけて食べるのは無理です。小豆と米を炊いた「ワチュエ」は赤飯とよく似ています。トウモロコシの粉を発酵させた「ケンケ」という食べ物もありますが、まだ試していません。

以前、住居が決まらず2か月ほどゲストハウスで過ごしていたのですが、火が使えないので現地食が続き、ついに拒否反応の状態に陥りました。同じゲストハウスに来ていたフィンランド人の数学者と一緒にレストランに

「ジョロフチキン」



ジョロフというご飯に味をつけたもの。プランテイン（主食用バナナ）も入っており、豪華版。このようなランチボックスはよく利用される。

行ったら、彼はバンクーを注文しました。さすがにスプーンを使って食べていましたが…。そのころ最もよく食べたのはライス（赤いもので味付けしたジョロフ、フライドライス、そのままのごはん）とチキンです。チキンといっても、骨に少しの肉が付いたものです。チキンの代わりにフィッシュを注文することもありましたが、骨だらけの小魚が2匹です。値段も10セディはします。量は大変多いですが、女性も同じように食べます。油を多く使うので、健康診断では皆コレステロールがかなり多くなるそうです。

また、日本人から見ると現地食は貧しい食事なのですが、日本では主食が米しかないと聞くと気の毒そうに同情してくれるそうです。確かにガーナでは主食が多彩です。それに、キャッサバなどは杵でついて餅状にするのですが、大変な労力と時間をかけています。

それから、「シト」という、魚の出汁や油、ペペ（唐辛子）などを混ぜた赤い味噌状のものを何にでもつけて食べます。ちょうど日本の醤油に相当するものです。どうしていつもこんなものが小さなコーヒーのミルク入れのようなもので出てくるのかが理解できません。今度、日本に留学する人がいるのですが、彼はどのようにしたらシトを日本にたくさん持って行けるかを思案していました。食習慣はお互い簡単にを変えることはできません。

○服装

ガーナ人は大変おしゃれです。男性も服をたくさん持っており、服装はフォーマルなものを好みます。Tシャツは学生の間でも人気がなく、だいたいシャツかポロシャツです。7、8月はしのぎ易くなりますが、それでも30度はあります。にもかかわらず、長袖シャツにネクタイ、黒のスーツといった服装を多く見ます。なので、アイロンは必需品です。旅行用のあまり大きくないスーツケースでも、アイロンが入っているのを目撃した人もいます。中学生ぐらいの子でも一生懸命自分でアイロンがけをします。

色ははっきりした色を好み、特に茶・オレンジ系の色が多く、またよく似合います。布はプリントとろうけつ染ですが、複雑な抽象柄がほとんどで、格子模様や具象的な模様はあまり見ません。オランダからの輸入品も多いですが、国内の数社が特徴的なデザインで競っています。布（1ヤード5～15セディ位）（1セディ＝約30円）を買って、たくさんある仕立て屋に持って行くのが普通です。特に女性にはタイトなデザインが人気なので、オーダーメイドが多くなるのだと思います。

その他には、「ケンテ」と呼ばれる手織りで模様編みをした20cmほどの帯状の布があります。これをつないだ、丈の短い民族調の「フグ」と云う上着を男性がよく着ています。

暑いので汗をよくかくため、洗濯ものは大変多くなるのですが、湿度が高いので直射日光が当たらないと乾きません。雨季は天気が変わり易いので、外で雨に濡れている洗濯物を見ることも珍しくありません。草の上やコンクリートの上に干しているのもよく見ます。

また、男性の髪はバリカン刈りです。女性も高校生ぐらいまでは男の子と同じような頭ですが、大人になると編みこんでいます。鋏を使う理容店がないので、私は自分で散髪をしています。JICAの男性隊員で、美容院で編んでもらった人もいますが、料金は30セディで、6時間もかかったそうです。痛いのと頭を洗えないので3日ぐらいで止めたとのことでした。

「布屋」



右側がろうけつ染、左がプリント。オーダーメイドで服を作っているボランティア隊員も多いのですが、縫製の技術は高いそうです。

○ショッピング

ガーナのいくつかの大きな都市にはスーパーがあり、アクラにはショッピングモールもあります。しかし、ほとんどは小規模の店舗と路上での販売です。店舗はコンテナを利用したものが多く、また、市場などでは、小さな台をおいて少しの野菜などを売っている店がほとんどです。何処で何を売っているのかわからないので、必要なものを探すには苦労します。また、同じ物を同じ所でたくさんの人が売っているので結構気を遣います。路上での販売も大変多く、バナナ、とうもろこし、ピーナッツなどの間食類は路上販売が主だと思います。また、靴も路上での販売が多いようです。

こちらに来て驚いたのは、信号で車が止まると、頭に商品を載せた人が一斉に車道に入ってきて商売を始めることです。売っているものは、水、ミートパイ、プランテイン（主食用バナナ）のチップスなどのほか、電話のプリペイドカード、PC用コード、ベルト、電動按摩器、電気蚊取りネット、などなど誰が買うのかわからないようなものまであります。子供が目の不自由な親の手を引いて来ることも多く、食品は女性、その他は男性の売り子が多いという印象です。

長距離用トロトロで、乗客が一杯になるまで待っている時にもたくさんの売り子が来るのですが、ある時綿棒を売りに来た人がいました。そんなもの誰が買うのかと思っていたら、乗客の一人が買いました。よく考えると、街で綿棒を売っているのを見たことがないことに気付き、こちらも買おうと思いましたが、既に他に行ってしまっていました。

ちなみに、バナナ4本で1セディ（約30円）、ピーナツの小さい袋20ペソア（0.2セディ）、小さいキャベツ4セディ、細い人参3本で2セディ、立派なピーマン1セディ、にんにく50ペソア、玉子50ペソア、パイナップル1.5セディなどなどです。産地の路上で大変安く、ある時、クマシからの帰途にバスが止まったので何かと思うと、オレンジを買うためでした。勧められて買ったのですが、1セディで11個も入っていました。なお、スイカは1セディということですが、糖度が低いので自分で買ったことはありません。

野菜は大変種類が少なく、今はオクラ、トマト（小さくて不揃い）、小さいナスビのようなものを多く売っています。

肉屋はほとんど見かけません。大学の農場に売店があり、周りに勧められたのですが、玉子やポーク（こちらでは珍しい）、ビーフを買え大変重宝しています。ただし、肉は1kg、玉子は30個が単位です。「チキンはいらぬのか」と聞かれたので、「見せてくれ」と言うと、裏の建物に連れて行かれました。部屋の中に小さなケージがあって、その中に生きている鶏が数羽いました。ショップの人が処理をしてくれるらしいのですが、ちょっと手が出ませんでした。

「路上の靴屋」



「物売り」



「オレンジ」



また、学校の自分の部屋にいてもいろいろな人が訪ねてきます。物売りも多く、PC用品、香水、ズボンなどなど、いろいろなものを持ってきます。今日は2人の若者が、小さいカメレオンを手に乗せて持って来ました。80セディで、餌はアリでよいというのですが、断りました。すると、他の先生が「彼が買う」と言ったと言うのです。上のフロアーを指したのですが、犯人は分かっています。

他に、アジアほどではありませんが、若い女性がルイ・ヴィトンのバッグを持っているのを時々見かけます。

「八百屋」



八百屋では2,3種類のもの売っている店がほとんどです。この店（路上で軒を借りていますが）は多くの種類の野菜を売っているのを時々利用します。特に、ジャガイモを売っている数少ない店です。

○携帯電話とインターネット、郵便

携帯電話は大変普及していて、複数の携帯を持っている人も少なくありません。若い人は大抵スマートフォンを持っています。インターネットはUSBモデムでの無線を使っています。家で有線の回線を使えば速度は出りますが、インターネット事情はあまりよくありません。

郵便は私書箱が原則です。自宅配達に国際的な制度であるEMSもありますが、番地のような住居を番号で特定できるシステムではなく、地方では最後が「木の下」というような住所もあるそうです。

○教育

我々の世代は、ガーナの初代大統領である「エンクルマ」という名前は子供時代によく耳にしました。第3世界のリーダーの一人でした。その伝統だと思うのですが、教育には熱心です。

初等教育は、各々の学校に制服があります。朝は7時から7時半ごろに登校し、授業の後、9時ごろに給食の朝食をとります。昼食は（いくつかのパターンがありますが）午後2時ごろにとって下校します。遅い昼食です。

また、方々に「カレッジ」という日本での専門学校に相当する学校があります。行政の教育投資は大きいのですが、課題は先生のスキルようです。教員資格もあいまいだと聞いています。よい教育により、よい職業につければよいのですが、大学を卒業しても就職できない率も高いそうです。部屋に時々若い人が、パソコンの周辺機器など色々な物をセールスに来ます。英語もでき、しっかりした感じのよい人が多いのですが、恐らく高等教育を受けてもよい職を得ることができないので、アルバイトをしているのだと思います。

大学では、女子生徒は3割ぐらいです。教員も同じような比率です。意欲のある女性が多いと思います。教員が集まって成績評価の確認をしていた時、皆が優秀だとしばしば名前を挙げていたのも女生徒でした。

大学院では、先生などの職業を持った人もいます。受け持っている教科の女学生の一人も先生です。彼女の授業と重なっていると聞き、私の方の授業時間を変更したことがあります。入試の面接で立ち会ったときも、同じような経験がある教員が、「大変ですが頑張れますか」という質問を繰り返していました。

○宗教とお墓

ガーナ人の多数は熱心なキリスト教徒で、日曜日には家族そろって教会に行きます。休日には多くの集会が開かれ、女性はカクテル・ドレス風、子供もスーツに蝶ネクタイといった感じでみんな着飾っています。宗派が多く、住んでいるそばにも教会が二つあります。何れもドラム付きで歌を歌ったり、巨

大なスピーカーを使って熱狂的な演説を行います。「ハレルヤ・ハレルヤ」と、カラオケ大会並みの大音量が夜中まで続くこともあります。学内の会議の前後でも、雑談していたのに急に無視されたかと思うと、突然御祈りが始まったりします。

それから、2割程度はイスラム教徒です。学内にもモスクがあり、昼ごろにそちらの方に向かっている人に会います。ムスリムはキリスト教徒とは正反対で、静かに個人ごとにお祈りをします。校舎の横の空き地にむしろのようなものを敷き、やかんで手などを洗って2、3人がお祈りしているのをよく見かけます。夜中にコーランの声が聞こえることがあります。アラビア語の節回しがのどかに聞こえます。キリスト教の華麗な大音響の集団活動と、イスラム教の質素で静かな個人活動とは正反対です。

伝統的な宗教はあまり見ることはできませんが、日本の神道のような共通の信仰はあるようです。

お墓は立派なものを見ます。写真付きや、天使の人形付きのものも車窓から見たことがあります。棺桶を売っている店もよく見ますが、土葬のためか、日本のものよりもかなり豪華です。

○外国人

ガーナでは、アフリカの外から来た外国人を「オブロニ」と呼びます。小さな子は我々を見ると「オブロニ」と言って珍しそうに見ます。歩いていると大抵、ニーハオかチャイナと言われます。しかし、アジア系の外国人を見かけることはまれで、欧米人が大半です。ケープ・コーストは観光地で、ドイツ人が作ったバックパッカー用のホテルがケープ・コースト城の近くにありますが、その辺りでは欧米人を何時も見かけます。ケープ・コースト大学にも、米国の短期研修だと思っのですが、十数人の集団が時々SASAKAWA ゲストハウスに滞在しています。いずれも8割は女性です。東洋人はほとんど見かけません。また、大学の近くに中国の建設会社が大きなフットボールスタジアムを建設中ですが、工事が止まっているようで、いつも音が聞こえず、人も見かけません。

町を歩いていると、子供や教育の機会に恵まれなかった感じの人が時々「チン・チャン・チョン？」と言っているのを耳にしますが、我々アジア系の人間に対する蔑称です。田舎では耳にする頻度が多く、喧嘩を売って来る人もいるそうです。近所に保育園があるのですが、ある時、母親らと帰る途中の2、3歳の男の子が「オブロニ」と言いながら手を挙げて近づいて来たかと思うと、叩かれたことがありました。

また、エボラ出血熱で混乱しているリベリアでは、病気は外国人が持ち込んだと信じている人が多いため、患者を隔離しても、家族が連れ去られるという噂が広がって騒ぎになりました。

ただ、日本でも外国人を蔑視したり、同じような噂を広めたり信じたりする人はいるので、同じだと思います。

今は、プライドが高そうで自信にあふれた人は避けるようにしています。「ニーハオ」、「チャイナ」と言われて、以前は「No, Japan」と言っていたのですが、今は「Sorry, メフィリ・ジャパン(I am from Japan)」と言うようにしています。

しかし、ほとんどのガーナ人は大変好意的で親切です。「Welcome」といって握手してくる人も時々います。名前や電話番号を聞かれることもしばしばです。

○病気とマラリア、蚊

熱帯地方の病気の代表と言えば「マラリア」だと思います。ボランティア隊員も以前はほとんどの人が一回は罹ったようです。今は抗マラリア薬を定期的に服用するので、ここ2年ほどは隊員の患者は出ていませんでしたが、最近2人の患者が出ました。やはり、予防薬の服用をきちんとしていなかったことが原因のようです。

来る前は、蚊に刺されないか大変心配していましたが、ガーナに来てみるとほとんど蚊はいません。

蚊の羽音を聞いたのは半年で2、3回ぐらいです。時々刺された跡があるので、蚊がいることは確かですが、明石市のように、夕方外にでると蚊が寄ってくるようなことはありません。水たまりも多いのですが、あまり関係はなさそうです。ただし、ダニ(?)にはよく咬まれます。

マラリアは、マラリア原虫を蚊と人がうつし合って原虫が繁殖するのですが、短期間の免疫もあり、薬は我々には効果がありますが、現地の人にはあまり効果はないそうです。昔から多くの対策がとられてきましたが、根絶は無理な病気のようにです。

しかしそれ以上に、今もっとも我々が警戒しているのは「コレラ」です。アクラを中心に南部では2万人以上の患者が出ています。手で食べる習慣があるのと、上下水道設備が不備なせいで感染は早く、学生にも殺菌ジェルを使っている人がいます。とにかく手洗いが一番で、私も友人の送ってくれた手洗い法の解説を勉強して感染対策をしています。

外国ではエボラ出血熱の報道が盛んですが、それは日本や欧米に脅威があるためで、現地でもっと深刻なのはコレラやマラリアです。(続)

2014/11/9 JICA シニア海外ボランティア 馬場 金司